

飯田市新型コロナウイルス感染症対策
第2回 専門家会議 議事録(概要)

令和2年12月4日(金)14:00~15:00
於:飯田市役所 2階 第2委員会室

市長あいさつ

飯田下伊那地域におきましては引き続き落ち着いた状況が維持されているわけですが、全国的には感染拡大の傾向が続いており、GO TO キャンペーンの見直しなどの動きが出てきております。予断を許さない状況という風に認識をしております。

11月25日に市議会が開会いたしまして、Back to 飯田キャンペーンを含む補正予算について可決をいただいているわけですが、状況の変化がございますのでどう対応していくべきか本日お諮りをさせていただきたいと思っております。

協議(以下、市長は座長となります)

(座長)

本日の協議事項ですがBack to 飯田キャンペーンについてと、感染拡大の傾向についての状況の共有、それから留意事項の共有です。最初にBack to 飯田キャンペーンをお諮りしたいと思います。

(橋本専門幹)

1点目ですが、今後のBack to 飯田事業の対応についてです。新型コロナの感染拡大に伴い重症者も増えている状況です。さらに緊迫した状況になった場合に、このBack to キャンペーンはどのような対応をしていけば良いかご協議をお願いしたいと思います。

案として、帰省する場合の検査の徹底と感染防止対策の呼びかけを行うこと。緊急事態宣言が発出された場合につきましては、緊急事態宣言に従い、〇〇等の自粛に従うよう、呼びかけを行うこと。県のレベル5に相当する非常事態宣言につきましては、非常事態宣言に従い行動していただくということ。また県のレベル6につきましては、国の緊急事態宣言の場合と同じというように、あらためて、学生や飯田におられる保護者の皆様に周知の徹底を図るということを行ってはどうかという提案です。

2点目は帰省前の検査における検査前の行動自粛の周知です。前回の会議におきまして帰省日前の3日間については、検査結果を含め、検査を行う日とご理解をいただいたわけですが、さらに検査を受ける前の数日間につきましても、あらためて3密を避け、また外出を控え、感染予防対策を徹底していただくことを、あらためて周知するという事です。

3点目の帰省後の検査は、これまで帰省前の検査を補助対象ということで事務を進めてきましたが、都市部で感染者が増えている状況も鑑み、検査確認までに日数を要する状況も予想されるだろうということを前提に、帰省後において当地域で行う検査も対象とするものです。ただしこれにつきましては、帰省日の1日後、2日後につきましては、自宅待機・外出自粛ということで3日後、または4日後に検査を受けていただくという周知の徹底を図りながら、帰省後においても検査を対象とするということです。

4点目は、対象帰省期間の変更です。学校の授業が例年と異なり、12月早々から冬休みに入っている、学校やオンラインによる在宅授業、通学不要のケースも出てきているという状況もお聞きしています。したがって対象帰省期間につきましては、当初は12月19日から1月11日までということで設定しましたが、議会の予算をご決定

いただいた 11 月 25 日からとしたいとするものです。

(座長)

1 点目について、今後の対応ということで警戒レベルが上がった場合にどう対応をするかということでお諮りをしたいと思います。当方の考え方としては、国の方の判断基準、判断指標によるステージ 4 の地域から帰省する場合は、帰ってくるならば必ず検査をして帰ってきてください。そういう呼びかけにトーンを変えるという対応をしたかどうかということです。緊急事態宣言、非常事態宣言という場合には、その制限の内容に従って行動してください、という呼びかけになるわけですが、このように緊迫した状況になった場合には呼びかけるトーンを変えていく必要があるだろうと考えています。この対応について専門家の皆さんのご意見をいただければと思います。

(委員)

飯田に戻ってくる学生に対して、改めて帰ってくる時にはしっかり検査をしてくださいという意味での依頼は大変良いと思います。

言葉のあやかかもしれないけれど、Back to 飯田「キャンペーン」という表現が少し誤解になりやすいかと感じます。

(委員)

必ずこれを利用してください、そして帰ってきてくださいと、もう一度念を押すということは非常に良いことだと思います。

(委員)

潜伏期間中に検査を受け陰性と言われて帰ってきた後に、多少熱があっても外出すれば、それがクラスターになってしまうわけです。これが一番困ることです。それを出来るだけ防ぐためのこの取り組みはよろしいと思います。

あと Back to 飯田キャンペーンも途中で中止をする場合、ある程度の数字目標などを作っておいた方が良いのではないかと思います。

(座長)

2 点目及び 3 点目に入りかけていますが、1 点目については今申し上げた形で進めさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員)

この Back to 飯田については学生というイメージがちょっと強すぎるかなと思います。この時期の帰省は学生に限られたことではなく、学生以外の帰省する方たちにも検査前の行動自粛や帰省後の検査をもっと周知した方が良いと思います。補助を出すこととは別に、そのメッセージを出さない。今が一番大事だと感じますので、学生たちと同時に、いろんな人たちにメッセージを同時に出していただきたい。

(委員)

3 点目についてもこれでよろしいと思います。当圏域の医療機関でも抗原定量検査をやってくださる医療機関が段々増えてきており、検査設備体制も整えていけばよろしいかなと思います。

(委員)

2点目及び3点目に賛成します。同時に広く多くの方々へお伝えした方が良いのではないかと、それも非常に同感です。検査も地元でやると経済のまわり方が違うと思います。当圏域では抗原定量検査という非常にクオリティが高い検査が利用できます。地元の経済を回すことを考えると、3点目を優先していただけたら良いかと思います。

(委員)

伊那市の飲食店で、噂による不安を防ぐために店名を公表したことが、逆に風評被害に広がる事例がありました。心無い誹謗中傷があった場合の受け皿を明確にしてほしいと思います。誹謗中傷の問題が起きた時は市のご相談ください、受け付けていますということを明記してほしいと思います。市の中で受け皿を作っていただくことが大事かなと思います。

(委員)

年末はどうしても人の動きが出てきますので、みんなでもう少し我慢して気を付けようというメッセージを強くあげた方がいいなど。もう少し我慢しようよという雰囲気は大事にしたほうがいいのかと感じています。

(委員)

国がこういう形が出ているのであれば、私とすればこれに沿うような形でやっていければよいかと考えております。

(委員)

成人式の関係ですが、多くの方は2泊3日で帰ってくる。そういう人たちは帰って来てすぐに検査を受けていただけてよろしくて、この表とは少し変わってくる。これは3泊以上する方の対応になると区分けして考えていただくのがよいかと思います。

(委員)

年末年始の人の動きを想定すると、今までにないような人の動きが起こる。特に首都圏、人口密集地からさらに多くの人たちが地元に戻ってくる。これは喜ばしいことだけれども、見方を変えると今までに想定したことがないような、感染リスクを私たちは負うこととなります。感染爆発はここでは絶対に起こしてはいけません。飯田下伊那の医療機能は極めて脆弱です。

(座長)

今日は成人式の話ではなかったですけども、今の懸念については教育委員会と共有して考えたいと思います。

(委員)

様々な行事も中止が続いていますので、そういった雰囲気をつかんで、判断していただいた方がよいのかなと感じています。

(座長)

ありがとうございました。以上を持ちまして第2回の専門家会議を終了したいと思います。